

楽譜の読み方講座 その1

こんにちは、お髭の事務局長 中央区交響楽団の堀内です。
いよいよ中央区第九の会合唱団の練習が始まりましたが、楽譜の読み方
って難しいですね。そこで、実際皆さんがお使いの楽譜のページを例に、楽
譜の読み方について解説したいと思います。その第1段です。

P11の例

ソリストパート
カタカナ表記の
ない歌詞の部
分はソリストの
パートです

楽譜の進み方

仕切り線
楽譜の段が分
かれていること
を示します。こ
のページでは4
段に分かれて
いることにな
ります。

練習記号
練習の際、指
揮者が指導し
やすいように
アルファベッ
トが記されて
います。

パート指示
各パート名が
記されています
。この例では
Bass (バス)
パートになり
ます。

Sop. ソプラノ
Alt. アルト
Ten. テノール
Bass バス

小節番号
第4楽章の冒頭から数えて何
小節目かを示します。この例で
は242小節目を示しています。

小節
縦の線で仕切られている、この
マス一つが1小節になります

242
Göt - ter - fun - ken, Toch - ter aus E - ly - si - um! Wir be - tre - ten feu - er - trun - ken,
Ob.
Cl.

247
Himm - li - sche, dein Hei - lig tum! Dei - ne Zau - ber bin - den - wie - der, was die Mo - de
cresc. p cresc.

252
streng ge - teilt, al - le Men - schen wer - den Brü - der, wo dein sanf - ter Flü - gel weilt.
cresc. p cresc.

257 Alt.
2 32
Ten. Dei - ne Zau - ber bin - den - wie - der, was die Mo - de streng ge - teilt; al -
ダイ - ネ ツァウ - ベ - るビン - テンヴィー - テ - るヴラス ディーモ - デ シュレンクゲ - タイルト ア -

4 40
Bass Dei - ne Zau - ber bin - den - wie - der, was die Mo - de streng ge - teilt; al -
ダイ - ネ ツァウ - ベ - るビン - テンヴィー - テ - るヴラス ディーモ - デ シュレンクゲ - タイルト ア -

Tutti f

各段の一番下の譜面は、
ピアノ(オーケストラ)
パートの楽譜です。

P24の例

24

ここはソリストの譜面になります。

ここが合唱パートになります。

以下オーケストラ(ピアノ)のみの演奏になるので、仕切り線はありませんが、楽譜の段が分かれています。この例(このページ)では、4段に分かれています。

練習記号

練習の際、指揮者が指導し易いようにアルファベットが記されています。ここは、練習記号『K』になります。

コラム 練習記号・小節番号の使い方

指揮者や指導者は、練習を円滑に進めるために、次にどこから演奏し始めるかを、『練習記号』や『小節番号』を使って指示します。例えば、上の楽譜の例の場合『429小節目からお願いします』と言われたら、このページの最初から演奏こととなります。また、『Kの前 2小節』と言うこともあります。これは、練習記号『K』の2小節前からという意味なので、『429小節目からお願いします』というのと同義となります。

また、練習記号のアルファベットは、分かりづらい場合があるので(例えば『B』と『D』や『P』と『T』など)、練習記号『B』を指定する場合、『ベートーベン B から お願いします』とか『ドイツ D から お願いします』といった感じに、その記号が頭文字になるある単語を用いて分かりやすく指示する指揮者もいます。(中には、ビール好きの指揮者は、『パドワイザー Bから』とか『キリンビール Kから』『モルツ Mから』といった感じで 何とかビールの銘柄で統一される方もいます。【笑】)

P27の例

ここは、525小節目です。

ではここは、何小節目でしょうか？
答えはこのページの下にあります

オーケストラが演奏するところは、このように楽器名が記されています。この例でのHr.はホルンのことです。

詳しくは楽譜の3ページを見てみてください

ここが合唱パートになります。

コラム 自分のパートを蛍光ペンで塗ってみては？

今回のベートーベンの第九の楽譜は、ソリストのパートが4部、合唱パートが4部、そしてオーケストラのパート(ピアノ)が2段と大変複雑な構成になっています。そこで、ご自身のパートつまり、歌う場所を蛍光ペンなどで塗っておくと分かりやすいと思います。

どこが自分の歌うパートか迷われる方は、塗る前に、同じパートの方や、指導者の先生にお聞きになってみてください。

バスパートの方ならこんな感じに塗ってみては？

P53の例

このページのように、左側が縦に線が引かれている場合は、1ページ1段の楽譜になります。左から右に一緒に進みます。

この例では、上4つの五線が、ソリストのソプラノ、アルト、テノール、バリトンのパート
そして、その下の4つの五線が、合唱のソプラノ、アルト、テノール、バスのパート
最後下2つの五線が、オーケストラ（ピアノ）パートになります。

多くのページは大体2段構成になっています。

ページによって段数が異なるので、気をつけましょう。

783

ne Zau - ber, dei - ne Zau - ber bin - den wie - der,

den, bin - den wie - der, was

dei - ne Zau - ber bin - den wie - der, was die Mo - de

bin - den wie - der, was die Mo - de streng

783 Sop. *p cresc.*

18 Dei - ne Zau - ber, dei - ne Zau - ber
42 ダイ - ネ ツァク - べる ダイ - ネ ツァク - べる

Alt. *p cresc.*

18 Dei - ne Zau - ber, dei - ne Zau - ber
42 ダイ - ネ ツァク - べる ダイ - ネ ツァク - べる

Ten. *p cresc.*

24 Dei - ne Zau - ber, dei - ne Zau - ber
51 ダイ - ネ ツァク - べる ダイ - ネ ツァク - べる

Bass *p cresc.*

24 Dei - ne Zau - ber, dei - ne Zau - ber
51 ダイ - ネ ツァク - べる ダイ - ネ ツァク - べる

783

p cresc.

コラム 音楽記号を覚えましょう（強弱記号）

楽譜には、音楽記号と呼ばれるものが多数現れます。その意味を覚えて、表現に生かしてみたいかがでしょうか？ 今号では、少しだけ強弱記号について解説をしたいと思います。

f(フォルテ)

p(ピアノ)

mf(メッツフォルテ)

mp(メッツピアノ)

pp(ピアニシモ) や ff(フォルティシモ) pplはpよりさらに弱く、ffはfよりさらに強くということになります。

ですから pp < p < mp < mf < f < ff という順番になりますね。

sf. sfz. (スフォルツァンド、スフォルツァート) というものもあります。

この記号が付いた音符に『突然強いアクセントをつけて』という意味になります。

イタリアでタクシーに乗って、ドアを半ドアで閉めると、タクシーのおじさんに『フォルテ！！』(強く閉めて)と言われるそうです。【笑】